



HIROKI YOSHIDA

OFFICIAL RELEASE

Race SUPER GT Rd.8
 MOTEGI GT 250km RACE
 Date 2014.11.15-16
 Race Track TWIN RING MOTEGI
 Team OKINAWA IMP・RUNUP GT-R



SPONSOR



粘り強く、そして我慢強く走り、最終戦を 18 位で完走

11月に入り、いよいよ2014スーパーGTシリーズも最終戦を迎えます。チームとしてRd.7のタイ戦はスキップしたため、前回の鈴鹿戦から約2ヶ月半の長いインターバルを挟んだレースとなりました。しかし今回は金曜日に公式テストが組み込まれていたため、通常のレースウィークより沢山走り込んでレースを迎えることが出来ました。

2014.11.14 FREE PRACTICE (20位/23台中)

WEATHER : DRY

金曜日に3時間15分の公式テストが組み込まれ、セッション開始と共にコースインします。

まずはあまり状態の良いくないタイヤで周回を重ね、通常通りバランスのチェックを行いました。この茂木はGT-Rにとって苦手なハードブレーキングのコーナーが多いため、少しでもその部分をカバーしようと何種類ものブレーキパッドを比較しながら走行を行いました。パッドのテストをしながら田中選手や藤田選手に確認をして貰い予選、レースで使用するパッドを選択しました。そしてセッション最後にNEWタイヤを使用しマシンバランスのチェックを行ったのですが、3回の赤旗でセッションが中断されるようなアタックが出来ないまま、20番手でこの日のフリー走行を終えることとなってしまいました。



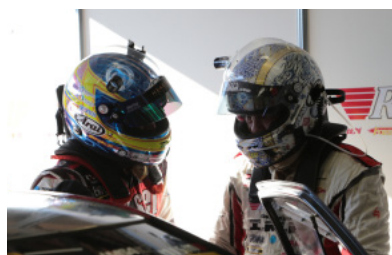
2014.11.15 FREE PRACTICE (21位/23台中)

WEATHER : DRY

この日から通常通りのレースウィークとなります。

昨日のデータからブレーキング時の姿勢が安定しないためその部分の修正と、マシンバランス自体のセッティングを中心に進めていきます。しかし中々グリップを得られず苦戦している上に、ブレーキ問題とも向き合いながらの走行となり、頻りにビットインし問題解決の糸口を探します。

この後は田中選手にもバランスを確認して貰い、セッティングの方向性について話し合いながら走行を続けたのですが、思うようにタイムアップ出来ないうまま21番手で最後のフリー走行を終えました。



2014.11.15 QUALIFYING (21位/23台中)

WEATHER : DRY

今年のレースで一番厳しい状況の中、予選を迎えることとなりました。

タイヤの選択から思い切った選択を行い、Q1突破を狙いコースインします。今までのレースと違い気温や路面温度が低いため、入念にタイヤを温め計測4周目からアタックを開始しました。アタック1周目はフロントタイヤが温まっていなかったため、続けてアタックを行った結果、この週末では自己ベストとなる1'50.558というタイムを刻みます。しかしQ1突破には到底及ばないタイムだったため、クールラップを挟み再度アタックを試みたのですが、タイム更新はならず21番手で予選を終えることとなってしまいました。今年初めてQ1で敗退し、Q2に控えていた田中選手にバトンを渡すことが出来ず、悔しい気持ちと申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。



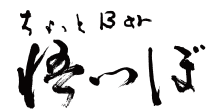
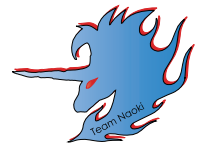


HIROKI YOSHIDA

OFFICIAL RELEASE



SPONSOR



2014.11.16 RACE (決勝 18位 / 23台中) WEATHER : DRY

決勝日の朝は快晴で、シーズンを締めくくるには最高のコンディションとなりました。朝のフリー走行では前日の予選で決めきれなかった部分の修正と、ガス満状態でのバランスを確認し 15 位で終了します。午後に入り、いよいよ 2014 年シーズンの最終戦を迎えます。

グリッドはよくありませんが、決して悔いだけは残さず思いっきり走り、田中選手にバトンを渡そうという気持ちでレースに挑みました。フォーメーションラップが終了し 250 km のレースがスタートします。まずは前方の混乱を見ながらポジションアップのチャンスを伺っていたのですが、1 周目に 1 台にパスされてしまいます。しかしすぐに切り替え、3 周目には前車をオーバーテイクしポジションをあげます。そこからは同じ車種のマシンが前を走っていたのですが、少しずつ追いつき 5 周目にはテールトゥノーズに持ち込みます。同じ車種ということで、得意な部分も苦手な部分も似てくるので、少しのミスも見逃さないように集中してプッシュし続けました。そのまま膠着状態が続いていたのですが、20 周を過ぎた辺りで 500 クラスが絡んだチャンスを見逃さずに仕掛けた結果、またひとつポジションを上げることが出来ました。

その後も前のマシンを追いながら走行を続けたのですが、フリー走行の時から懸念していたブレーキが段々と厳しくなってきます。そうしている内にドライバー交代の目安にしていた 30 周目に突入し、田中選手に交代します。今回は初めてタイヤ交換をせずに走りきる事を選択し、給油のみでピットアウトします。ここから田中選手に追い上げて貰うところでしたが、タイヤも厳しく、さらにはブレーキも状況が悪化するばかりです。レース後半に入る頃にはコースに留まることが精一杯の状況だったと思いますが、田中選手がうまくマシンをコントロールし無事にゴールまで運んでくれました。そんな状態でも最終ラップにはひとつポジションをあげて貰ったので、今シーズンの最終戦は 18 位でチェッカーを受けることが出来ました。

この茂木で 2014 年シーズンの全てのレースを終えることとなったのですが、納得できる結果を残す事は一度も出来ませんでした。しかし、結果は残せなくても常に全力でレースに挑みました。ドライバーとして至らないところは沢山ありますが、この RUNUP チームで走れた 1 年は大きな成長も出来たと実感しています。このチームではドライバーとしてはもちろん、一社会人としても沢山の事を学ばせて頂きました。

このチャンスを用意して下さいました田中さんを始め、チームメイトの藤田さん、エンジニア、メカニック、チーム関係者の皆さん、スポンサー様、本当にありがとうございました。今後の活動はまだ何も決まっておりませんが、来年もこのチーム、メンバーでより良いレースが出来ればと思っています。その為にも今年 1 年をしっかりと振り返り、自分の足りない部分を考え、来年を見据えた活動をしていきたいと思っています。

関係者の皆様、今年 1 年ありがとうございました。引き続きご指導、ご支援よろしくお願ひ申し上げます。

吉田 広樹

